



# 2022 年度環境経営レポート

(対象期間: 2022年6月1日 ~ 2023年5月31日)



®環境省

エコアクション21

認証番号 0009955

発行日: 2023年10月20日

# 目 次

	ページ
1:環境経営方針	3
2:組織の概要	4
3:事業・製品の紹介	5
4:環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
5:主な環境負荷の実績	8
6:環境経営目標及びその実績	9
7:環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画	10
8:環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反, 訴訟等の有無	17
9:代表者による全体の評価と見直し・指示	18

# 1:環境経営方針

## <環境経営理念>

当社は『新しい常識をつくります』を私たちの信念とし、妥協しない物づくりに取り組んでいます。また環境問題についても永遠のテーマと捉え、持続可能な環境保全活動に取り組み、お客様をはじめステークホルダーの皆様と共に継続的なイノベーションを図り環境に配慮したスパイラルな製品造りに邁進して参ります。

## <環境保全への行動指針>

1. 環境負荷の低減及び環境改善を図るために、次の項目について取組みます。
  - ①電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
  - ②廃棄物排出抑制、リサイクルと適正処理の推進
  - ③水資源の有効活用と節水
  - ④サプライチェーン上での省エネ・省資源への取り組み
  - ⑤グリーン購入の促進
  - ⑥太陽光発電による、二酸化炭素排出量抑制支援
2. 環境関連法規則や当社が約束したことを順守します。
3. 環境方針を全従業員で取組み、周知徹底します。

制定日：2012年4月1日

改定日：2021年6月1日

代表取締役 **佐古 圭弘**

## 2:組織の概要

更新日: 2022年4月1日

(1) 名称及び代表者名  
エースシステム株式会社  
代表取締役 佐古 圭弘

(2) 所在地  
本社・工場 大阪府和泉市あゆみ野3-1-3  
関東支店 東京都板橋区蓮根3丁目21-7(2023年1月移転)  
開発センター 大阪府和泉市テクノステージ3-1-11 RO202  
九州支店 福岡県福岡市博多区東那珂1-6-23

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先  
責任者 総務部 藤原 普美 TEL:0725-54-3958  
担当者 総務部 濱田 莉乃 TEL:0725-54-3958

(4) 事業内容  
連続蒸気炊飯機、各種省力機、各種自動制御装置の設計・製作及び販売、太陽光発電

(5) 事業の規模

売上高 188,136 万円

	本社・工場	関東支店	開発センター	九州支店	合計
従業員 名	35名	10名	22名	3名	70名
延べ床面積 m <sup>2</sup>	880m <sup>2</sup>	245m <sup>2</sup>	255m <sup>2</sup>	126m <sup>2</sup>	1,380m <sup>2</sup>

(6) 事業年度 6 月 1 日 ~ 5 月 31 日

認証・登録の対象組織・活動

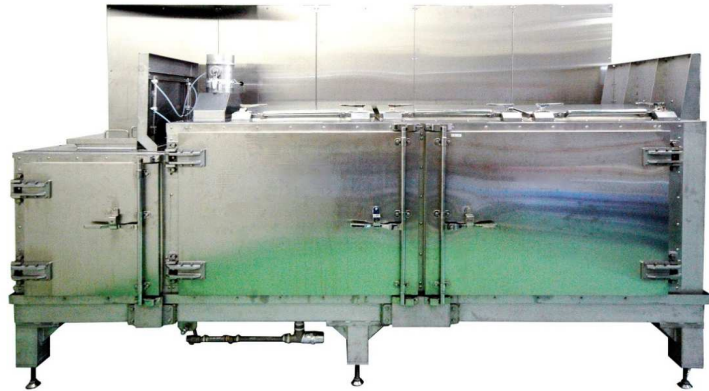
登録組織名: エースシステム株式会社

対象事業所:  
本社・工場  
関東支店 2023年に拡大予定  
開発センター 2023年に拡大予定  
九州支店 2023年に拡大予定

活動: 連続蒸気炊飯機、各種省力機、各種自動制御装置の設計・製作及び販売、太陽光発電

# 3: 事業・製品の紹介

連続蒸気炊飯システム SRM1-125



マルチスチームクッカー(MSC)



各種ミールキット・カップごはんのメニュー開発



スチームクッカーの特徴

過熱水蒸気



**高カロリー過熱水蒸気による蒸し加工**  
 過熱水蒸気による蒸し加工は、煮加工や通常の蒸し加工に比べて時間短縮が可能です。また、複数種の野菜を色・味移りすることなく同時加熱できるため、作業効率の向上に繋がります。



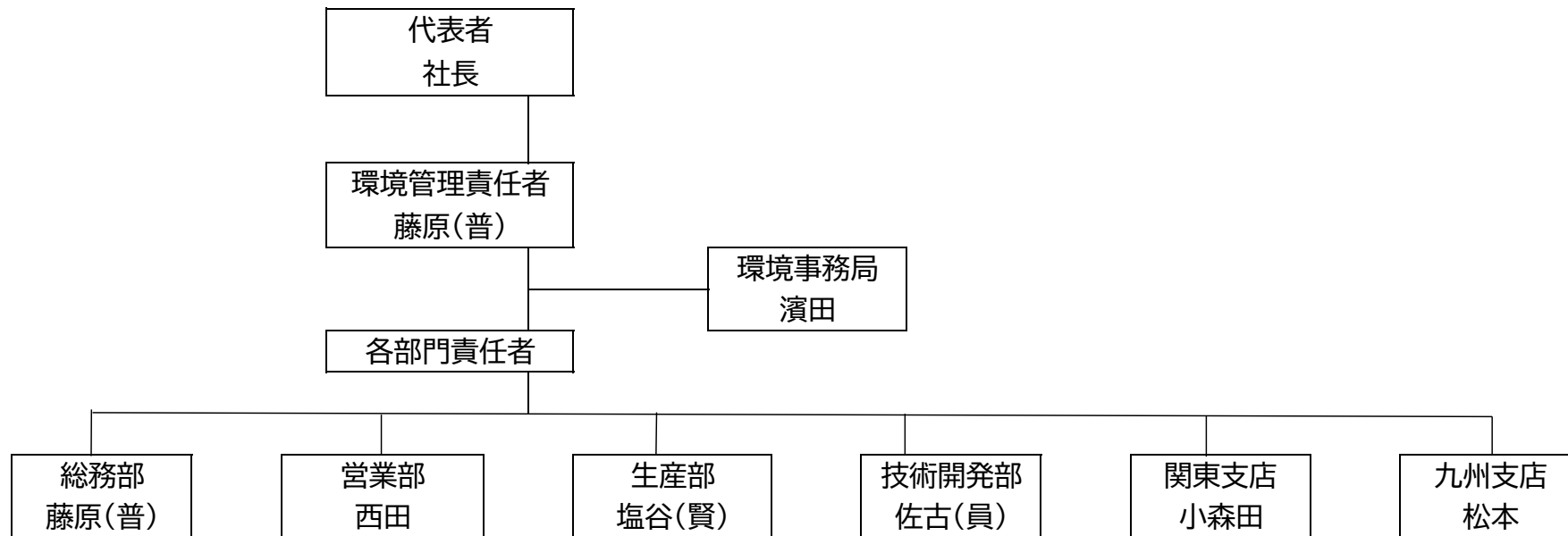
**低酸素環境での加工**  
 加工時の酸化を抑えることで、緑黄色野菜を色鮮やかに仕上げます。さらに、食材の栄養成分の流出を抑え保持することが可能です。(原料による差異があります)



**コストの抑制**  
 省スペース設計で、中規模の厨房・セントラルキッチンにぴったりサイズ。また省エネ性にも優れ、ランニングコストやイニシャルコストを抑制できます。

# 4:環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日: 2023年4月1日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備
	・環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定・見直し
	・環境経営目標・環境経営計画書を承認
	・代表者による全体の評価と見直し、指示
	・環境経営レポートの承認

環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表を承認
	・環境経営目標・環境経営計画書を確認
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
	・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、各部門責任者の事務局
	・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
	・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
	・環境活動の実績集計
	・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
	・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
各部門責任者	・環境経営計画の審議
	・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知
	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
	・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施
	・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成
	・試行・訓練を実施、記録の作成
	・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

## 5:主な環境負荷の実績(2022年度)

項目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	124,774	127,195	110,922
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	4,233	8,052	6,314
産業廃棄物排出量	kg	0	0	0

※二酸化炭素排出係数 0.351 kg-CO<sub>2</sub>/kWh (関西電力2020年度調整後係数)

なお、二酸化炭素総排出量には都市ガスを含む



## 6:2022年度環境経営目標及びその実績

※2022年度は2022年6月1日から2023年5月31日までです。

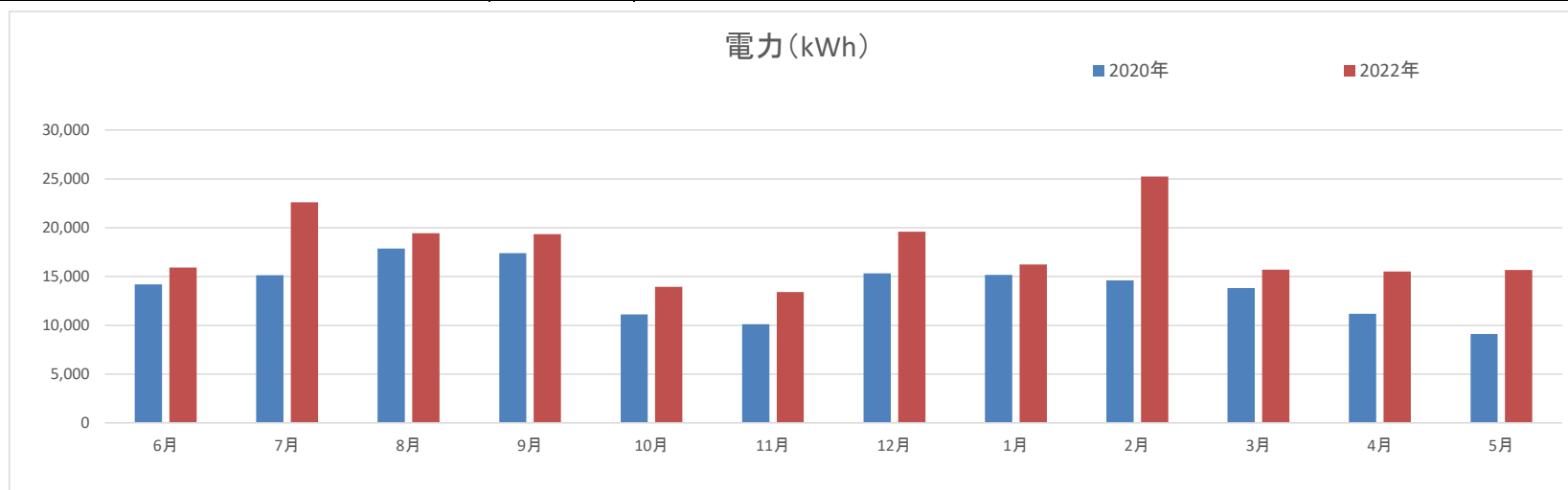
年度 項目		基準値 (基準年)	2022年		評価	2023年	2024年	
			上段: 下段: (目標)	(実績)		(目標)	(目標)	
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	57,904	56,746	74,592	×	55,588	55,009	
	基準年度比	2020年	98%	129%		96%	95%	
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	49,707	47,718	12,975	○	47,718	47,221	
	基準年度比	2020年	96%	26%		96%	95%	
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	20,706	20,085	17,527	○	19,878	19,671	
	基準年度比	2020年	97%	85%		96%	95%	
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	128,317	124,549	105,095	○	123,184	121,901
一般廃棄物の削減	kg	8,052	9,662	6,314	○	9,662	9,662	
	基準年度比	2020年	120%	78%		120%	120%	
水道水の削減	m <sup>3</sup>	2,007	1,907	1,534	○	1,867	1,806	
	基準年度比	2020年	95%	76%		93%	90%	
環境に配慮した生産活動	行動目標(次項による)							

## 7:環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

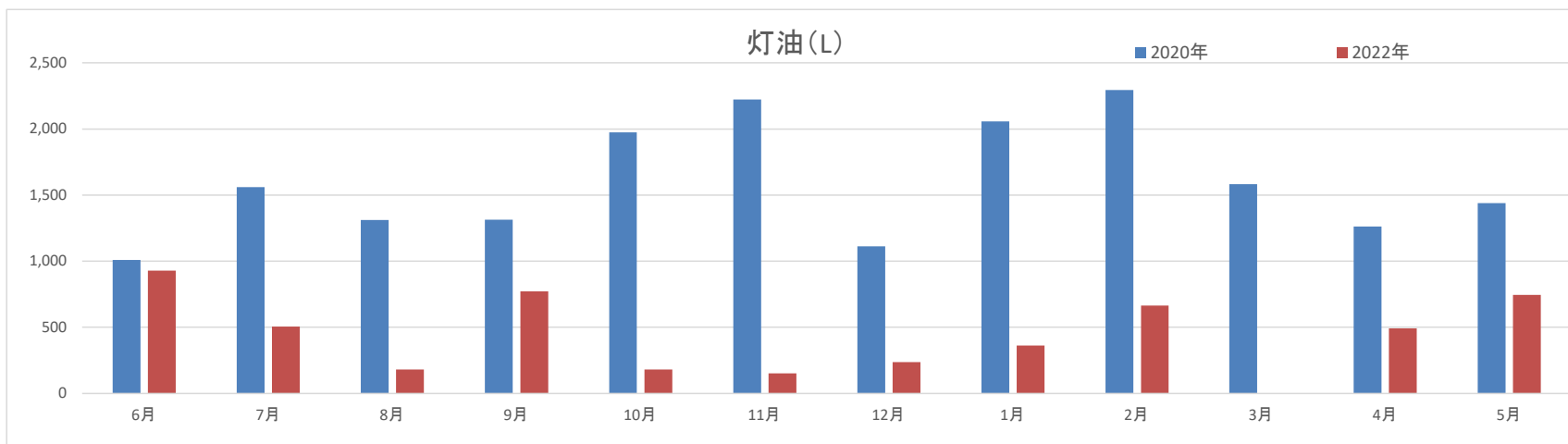
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	総量でも基準年を上回ったが、今回より開発センター及び九州支店のデータを反映させたため上回るのは仕方ないところもある。(関東支店・開発センター・九州支店は人数が少ないため別シートは作成せず同シートで管理することとする。) 次年度には開発センターの移転もあるが、今後しばらく拠点の増加の見込みはない為直近2.3年のデータを参照して次年度の目標値を設定する。引き続き節電や省エネ家電等の使用を全従業員へ呼びかける活動を行う。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯	○	
・空調機の定期的な清掃、フィルター交換	○	
・ボイラーの定期点検	○	



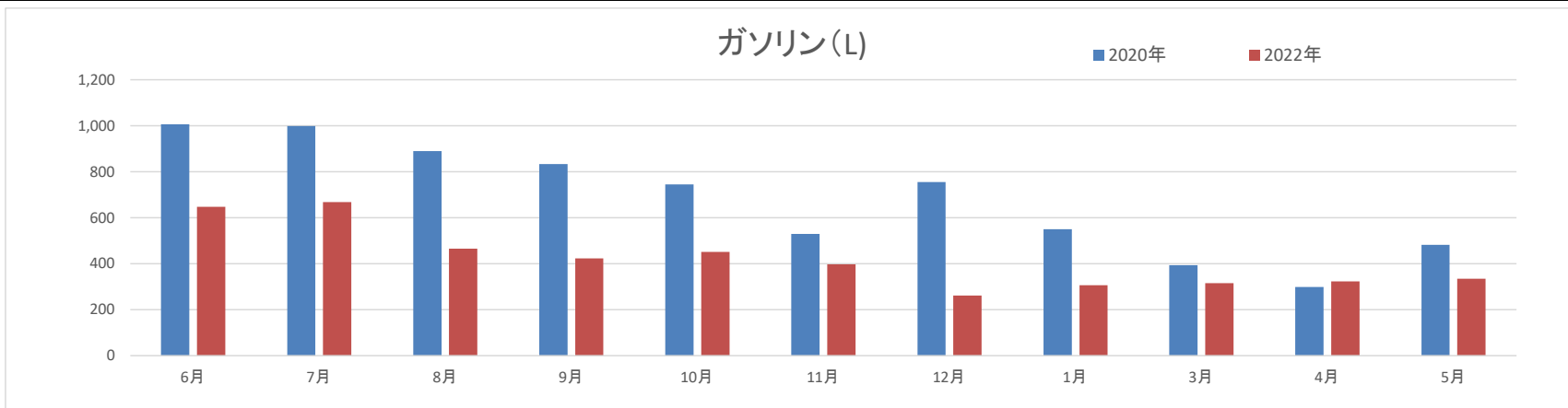
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	14,178	15,143	17,852	17,381	11,119	10,116	15,315	15,166	14,605	13,810	11,183	9,101
2022年	15,904	22,593	19,420	19,330	13,944	13,409	19,586	16,227	25,225	15,703	15,511	15,661

灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	灯油式ボイラーを電気式ボイラーに変えていったことで大幅に使用量を減少させることができた。
・ボイラ・加熱炉の空気比	○	
・蒸気・温水配管の保温修理	○	
・温水温度の適正化	○	

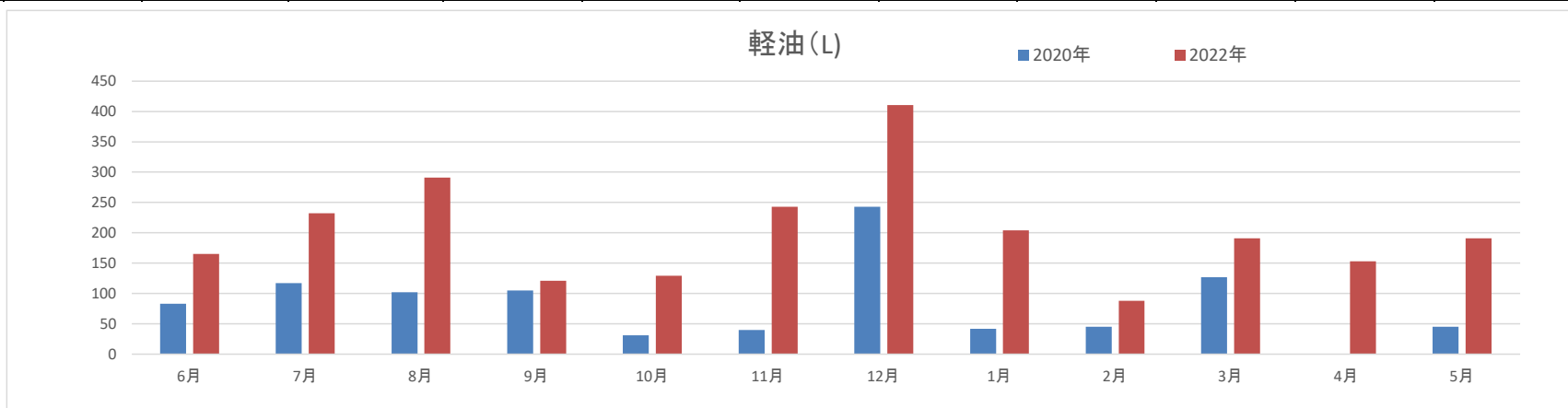


	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	1,007	1,560	1,313	1,315	1,974	2,223	1,110	2,057	2,295	1,584	1,264	1,439
2022年	928	505	180	771	180	150	235	362	663	0	490	743

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	・基準年と比べると15%削減できた。人数比で考えると人員は増加しているがガソリンの使用量が削減できた。トラックの使用が増加したが、軽油の増加をガソリン削減でカバーできた。 ・エリア別に営業担当を分け、地方への支店開設も進めている。人員の増加と車両台数も増加していく見込みがあるが、1台当たりの距離が短くなるためガソリン使用量が減らせたと考えられる。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで営業回り	○	
・エリア別営業活動の見直し	○	

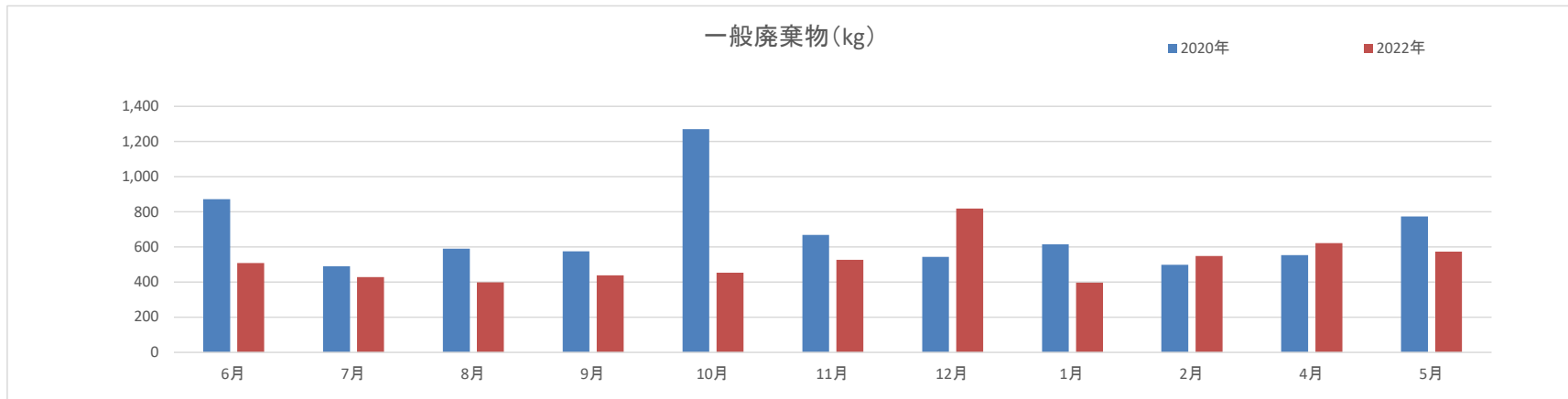


	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	1,007	999	890	834	745	530	756	550	325	394	299	482
2022年	648	668	466	423	452	398	262	307	217	316	323	335



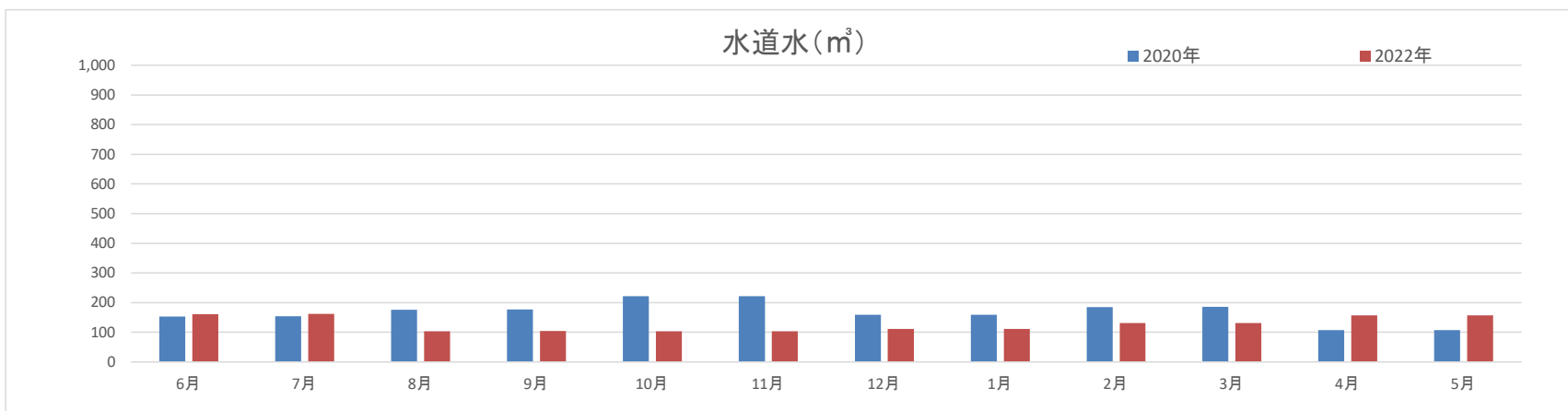
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	83	117	102	105	31	40	243	42	45	127	0	45
2022年	165	232	291	121	129	243	411	204	88	191	153	191

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	・基準年より大幅に減少することができた。 ・拠点を増設したことにより、新しい拠点ではごはんを捨てられる量に限度があるため大量のテストの際は社員で持ち帰ったり客先に引き取りを依頼することで大幅に捨てる量が減ったのでこれからも持続させていきたい。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	×	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	



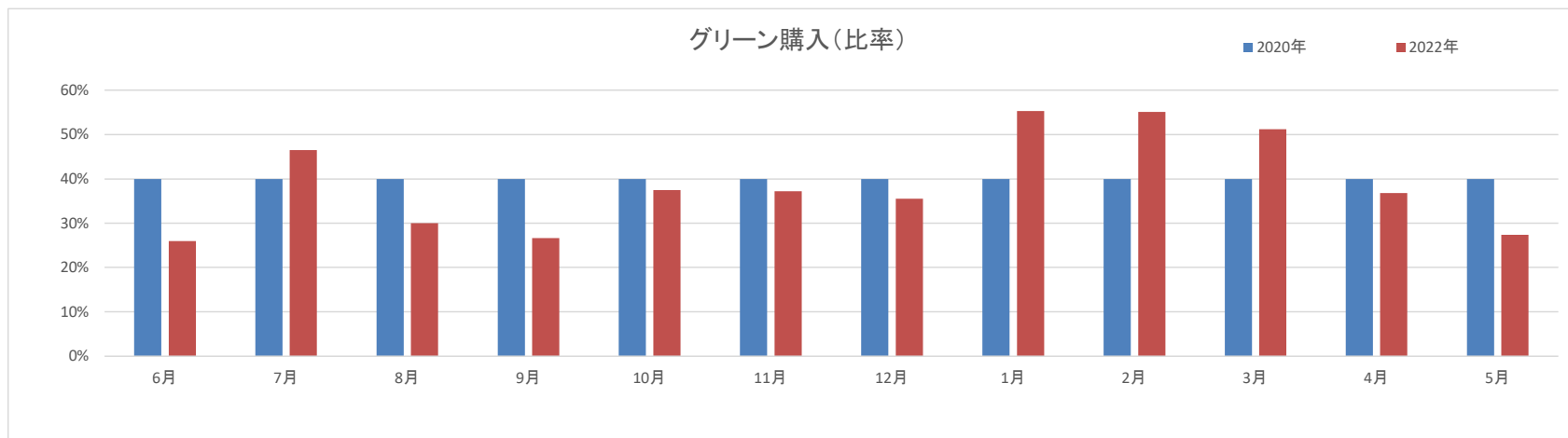
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	871	490	590	574	1,270	669	543	614	499	603	554	774
2022年	509	428	399	438	453	526	818	397	549	602	622	573

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	<p>・4.5月は目標値を少し達成することができなかったが、出荷件数が増えて出荷前試運転を行う回数が多かったにも関わらずこの数値だったため、設計面でも節水に気を遣っていることが再認識できた。</p> <p>・総量としては目標値を達成することができたため、引き続き節水や省エネ設計を心掛ける。</p>
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・節水弁取り付け	○	
・自動水栓取り付け	×	
・炊飯終了時チェックリストの実施	○	



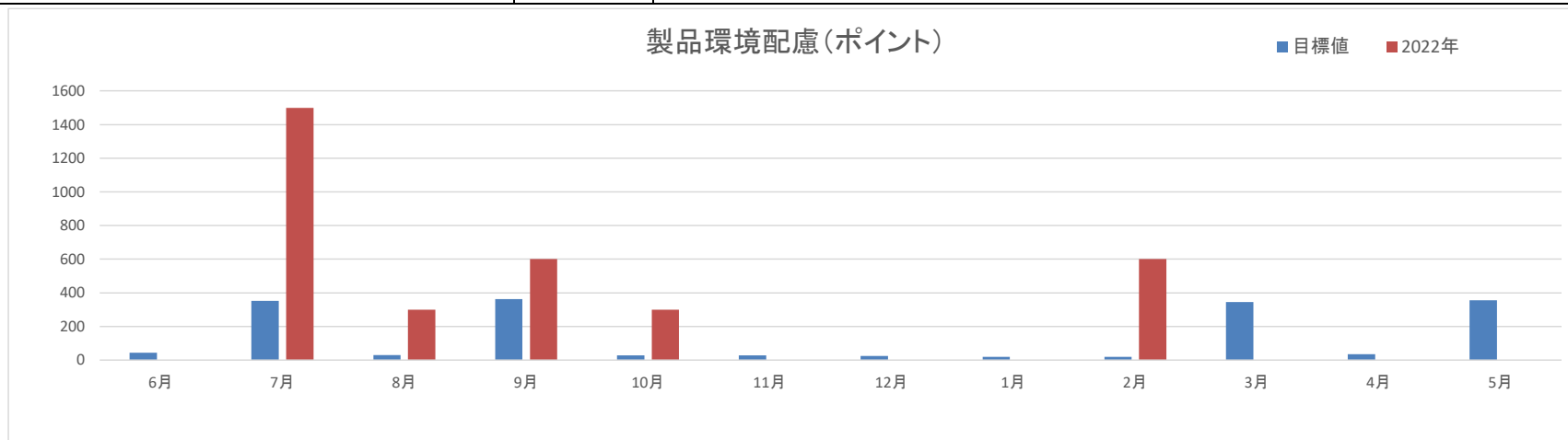
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	153	154	176	177	222	222	159	159	185	186	107	107
2022年	161	162	103	104	103	103	111	111	131	131	157	157

グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発センターの開設等で多少の増減はあったが、事務用品のグリーン購入比率は、約50%前後で推移している。</li> <li>・過去のデータからも適正值である。</li> <li>・次年度もこのペースを守っていくよう啓発する。</li> </ul>
・有害性の少ない資材の購入	○	
・省エネ性能の高い電気製品の購入	○	
・燃費のよい自動車の採用	○	
・事務用品グリーン購入比率向上	○	



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2020年	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
2022年	26%	47%	30%	27%	38%	37%	36%	55%	55%	51%	37%	27%

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・炊飯機販売	○	・まだコロナ禍ではあるが、行動制限の緩和や社会的思考の変化もあり機械の売上は過去最高となり、目標値を達成することができた。 ・引き続き販売促進をしていく。
・省力設計	○	



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
目標値	44	353	30	363	28	28	24	19	20	344	36	356
2022年	0	1500	300	600	300	0	0	0	600	0	0	0

※自社製品のなかで、釜炊き炊飯より省エネ性の高い蒸気炊飯機と、太陽光発電による炭酸ガス排出抑制量をポイント化(CO2、1tを1ポイントと設定)して記載することとした。



## 8:環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物(廃プラ、廃ガラス、廃油等)	○
騒音規制法	空気圧縮機、送風機	○
下水道法	除害施設	○
高圧ガス保安法	ボンベ類の転倒防止、40℃以下、警戒標など	○
消防法(危険物)	危険物の保管	○
PRTR法	対象化学物質の保管・使用	該当なし
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫	○
顧客要求事項	品質管理	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。  
 なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

外部からの環境上の苦情・要請等  
 特になし

環境コミュニケーション記録

2022年度は11/4、3/3の2回、地域の清掃活動に参加した(7/1は雨天の為中止となった)。  
 雑草抜き時間短縮のため外構再工事を施工。外観もよく従業員の負担も削減できた。



↑地域の清掃活動に参加する様子



↑会社前外構工事完工後

## 9:代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日: 2023年10月16日

- 1・弊社を取り巻く環境変化
  - ・22年度はコロナ環境が緩和された関係で、飲食業界や観光インバウンド等が盛んになり、特に海外ユーザーからの問い合わせが多く商談に繋がるケースが増えた。
- 2・弊社の商品開発と貢献
  - ・弊社の蒸気炊飯調理器は炊飯・野菜等の調理特徴だけでなく、大量炊飯でありながら熱効率や省エネ効果が高く投資採算性に優れているので企業への導入効果が高い
  - ・又個食炊飯も可能なことから一般ユーザへの食文化(時短調理・日持ち・安全なご飯等)を訴求し提供している。
- 3・新規ユーザーへは蒸気炊飯の特徴を理解頂く為にテスト炊飯による試食や装置を稼働させ操作の利便性等を理解頂いています。又ユーザーニーズを的確に把握する為、アンテナショップでのメニュー提供や関東・九州での拠点展開を進めております。
  - ・更に近接する工場を確保し新しい開発拠点として準備を進めると共に弊社独自の「カップ炊飯」を全国展開する拠点としても拡大予定です
- 4・弊社のエコアクションの取り組み

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/>	変更なし	<input type="checkbox"/>	変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/>	変更なし	<input type="checkbox"/>	変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/>	変更なし	<input type="checkbox"/>	変更あり

代表取締役 佐古 圭弘